

大分空港開港40周年

大分空港が、1971年(昭和46年)10月16日に国東市(武蔵町と安岐町)に移転開港してから、今年で40周年を迎え、式典や各種記念イベントが行われました。

10月15日(土)には、記念イベント第1弾として、普段は立ち入ることのできない滑走路でのウォーキングや空港内見学バスツアーが行われました。

空港運用前の早朝に行われた滑走路ウォーキングには、市内外から36人が参加しました。バスで滑走路に移動後、全員のカウントダウンで誘導灯が点灯した中を、記念撮影をしたり滑走路に寝そべったりしながら、約500メートルを歩きました。



10月15日(土)、滑走路ウォーキング

16日(日)には、県や市、空港関係者などが出席して記念式典が行われました。式典後には、乗降客に観光パンフレットなどを配布して空港の利用を呼びかけました。なお、大分空港では、11月以降もさまざまな記念イベントを計画中です。

「道の駅くみにみ」(国見農産物直売所)の指定管理者を募集します

市では、国見農産物直売所(道の駅くみにみ)の管理運営について指定管理者制度を導入しています。現在の指定期間が平成24年3月末で終了することから、平成24年4月からの指定管理者を募集します。

施設概要

(1) 名称

国東市国見農産物直売所

(「道の駅くみにみ」)

(2) 所在地

国東市国見町伊美4252-1

(3) 構造・面積

木造平屋
建築面積 472・95㎡
(延床面積 357・04㎡)

応募資格

法人その他の団体(民間事業者、NPO法人など)

応募期間

11月10日(木)～12月15日(木)

指定期間

平成24年4月1日～

平成27年3月31日(3年間)

業務の範囲や選考方法等、詳しくはお問い合わせください。

申し込み・問い合わせ

国見総合支所 地域産業課

☎0978-82-1113

市長室から こんにちは

国東市長 三河 明史

10月
15日
No.6

夕方まで激しく降っていた雨が突然やみ、開催が危ぶまれたケベス祭りの神事が始まりました。神主の祝詞の声以外は、物音ひとつ聞こえない静寂の中で、時の流れを越えて肅々と神事が進んでいきます。柴を燃やすはじける音がし、舞いあがった灰が神前に額づく私達の肩や腕に降りかかります。

やがて、玉ぐしの奉てんが終わり、ケベスになる若者が立ち上がり、二人の神主が黒い奇妙なケベスの面を被せ、白装束を着せていきます。そして、神主が若者の背に指で何やら文字を書き、「よし。」と若者の背中をたたくと、そこから若者はケベスとなり、太鼓と笛にあわせて、境内を練り歩くのです。ケベスは、燃え盛る柴に向かって突進を繰り返し、炎を守るトウバと幾度となく激しく争い、そしてとうとう炎に飛び込み、燃える柴をまき散らします。境内は、炎と火の粉、歓声と悲鳴、そしてカメラのフラッシュであふれ、最高潮に達します。

…やがて再び雨が降り始め、ケベス祭りも終わる時がきました。国東半島は本当に不思議な所だと思えます。ケベス祭りは、千百年も前から脈々と引き継がれてきているそうです。過ぐる10月8日に行われた岐部神社秋の大祭に奉納される子供獅子舞とみこ舞は700年前から伝えられているとのこと、そして今日10月15日には、伊美別宮社の神事と流鏝馬が行われました。

最近、秋の深まりを肌で感じながら、私たちの住む国東は、実に奥の深い摩訶不思議な魅力あるところだと改めて感じるとともに、この奥深い文化を市外、県外の方にぜひ知ってもらいたいという思いをますます強くする今日この頃です。